

僕は北海道芦別市の出身です。北海道はアラスカと似ています。なぜ犬ぞりに興味をもったのか？ 僕がマッシャーになったきっかけの始まりは、「北の国から」っていう北海道富良野が舞台のドラマを観た時に、それに出ていたログハウスがかっこいいなあって思って、いつか建てたいなって思ったことなんです。僕は、札幌市で公務員をしていました。地道に働きようやく札幌市郊外に土地を購入して念願のログハウスを建てました。幼少時代から大好きだった犬も飼いました。



1980年代、北海道で犬のスプリントレースが流行りだしたんです。僕は犬ぞりレースを見たとき感動しました。騎手の武豊さんっていらっしゃいますよね。彼が馬を操れるように、僕なら犬を操って一位になれるって感じたんです。



僕は28才の時、犬ぞりのプロが外国から購入する犬たちの子犬を売ってもらって、その犬たちと生活を共にし調教しました。僕には犬ぞりを教えてくれる先生もいませんでしたので犬ぞりの本を読みまくりました。僕は自転車に乗って犬を訓練し始めました。翌年、地元で主催されたスプリントレースに出場しました。

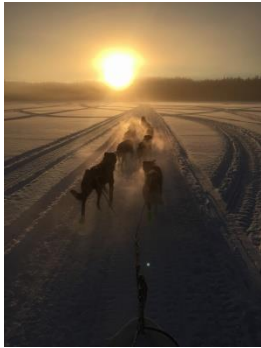
1995年、僕が33才の頃、アラスカにレースを見に行きました。その時、僕の心は決まりました。本場アラスカで犬ぞりレースに挑戦したいと。

1997年フェアバンクスで開催された Open North American Championship (Sprint Race) に初出場して 5位で新人賞を獲得しました。

1998年世界4大犬ぞりレース (Sprint Race) と呼ばれるレースの一つがあるんですが、アジア人として初めて優勝しました。その功績を称えられアラスカ州議会から表彰されアメリカ永住権を与えて頂き、2000年からアラスカで在住しています。



2013年頃、友人の死に直面した時の事を思い出しました。自分が死ぬ寸前に最後の挑戦レースやってないと後悔するんじゃないかなって感じた事です。友人の一人が、お前がやるなら応援するよって言葉で、クラウドファンディングでスポンサーを探し始めました。



2017年予選レース（出場権を得るレース）に出場しました。犬ぞりにはお金がかかります。犬の調達、トレーニング、餌、住み家、長距離レースではさらに飛行機代、スノーモビルレンタル、備品等。その時はWillowにある唯一の家を担保にいて銀行から5万ドル借りたんです。家がなくなってしまうと挑戦したいって思ったんです。経費を得るにはそれが最後の手段だったんですよね。



「筋肉は心も強くする」って思っていますから、筋力訓練は毎日欠かせません。人とのかわりが好きです。犬たちと一体化して風を切り競い一位を狙う。最高です。今はフェアバンクスのコテージでオーロラを觀にいらっしゃるお客様たちとアラスカの雄大さやそれぞれの人生論を語らいながらアラスカの空気の冷たさを肌に心地よく感じながら生活しています。

「諦めない限り 夢は終わらない」それが僕の信念です。

今野道博 日本人犬ぞりマッシャー